

2024年度事業計画

(2024年4月1日～2025年3月31日)

〈世界と日本〉

2024年は、アメリカ、ロシア、台湾、韓国、インドネシア、欧州連合（EU）など、各地でリーダーや議会の選挙が予定されています。民主主義の帰趨を占う「選挙イヤー」と言えるでしょう。ロシアのウクライナ侵攻は2年を超えましたが、戦争終結のめどは立っていません。昨年10月にはイスラム組織ハマスがイスラエル市民を襲撃し、イスラエルがガザに軍事的報復をしたことで様相は複雑化しました。アジア調査会は、「二つの戦争」にも影響を与える選挙をフォローしつつ、会員に役立つ情報発信に努めます。

注目のアメリカ大統領選（11月）は、再選を目指す民主党のバイデン大統領と野党・共和党のトランプ前大統領が争う、2020年と同じ構図になりました。調査会社「ユーラシア・グループ」は、今年の「10大リスク」の首位にアメリカの政治的分断を選び、どの候補が勝利しても社会や政治制度が損なわれ、アメリカの国際的な地位が低下すると予測しています。同盟国をはじめ世界に波紋が広がることになります。

近隣のアジア地域では、台湾の総統選挙と立法委員選挙が行われ（1月）、蔡英文氏に続き、民進党副総統の頼清徳氏が総統に就任することになりました。台湾総統選後、米中の政府高官による会談の中で中国は「台湾海峡の平和と安定に対する最大のリスクは『台湾独立』であり、アメリカは中国の平和的統一を支持すべきだ」と、釘を刺しました。中国は、アメリカ大統領選を待って行動を決めるという見方も出ています。また韓国では、4年に1度の総選挙が行われます（4月）。尹錫悦大統領を支える少数与党が敗北すれば、尹大統領は残る3年の任期中、主導権を握れなくなる可能性が高まり、改善傾向にある日韓関係の行方が注目されます。

アジア調査会はこうしたトピックを取り入れながら、定例の講演会や『アジア時報』の記事を展開して参ります。

〈事業内容〉

2024年度のアジア調査会は、これまでの実績や外交日程なども踏まえ、次のような事業計画を予定しております。

(1) 講演会・シンポジウムの定期開催

新たに始めた、参加者を20人に限定した対面による講演会が定着してきました。昨年度は、慶應義塾大学総合政策学部長・教授の加茂具樹氏による「大国化、集権化する中国とどう向き合うか」（『アジア時報』2023年10月号に詳細掲載）▽東京大学大学院教授の木宮正史氏による「尹錫悦政権の『新外交』と朝鮮半島を巡る国際関係」（同誌2023年12月号に掲載）▽東京大学名誉教授の北岡伸一氏による「国連改革について」（同誌2024年1・2月号に掲載）▽慶應義塾大学名誉教授の国分良成氏による「複雑化する中国情勢と日米中関係」（同誌2024年3月号に掲載）——を行いました。対面とオンラインとのハイブリットを希望する声もあり、講師とも相談しながら方法を検討したいと思います。

(2) 月刊誌『アジア時報』の充実

1970（昭和45）年に『アジ調月報』の名称で創刊され、1974（同49）年に『アジア時報』に改題されてから、今年秋に600号を迎えます。会員のほか全国の図書館や大学などで定期購読していただいています。一般の総合雑誌では収容しきれない、1本2万字ほどの記事や論文を掲載することもたびたびあり、長い原稿を読みやすくする点でも紙媒体を続ける意味はあると考えています。

昨年からは始めた青山学院大学名誉教授の土山實男氏による連載「日本のリアリズム」と、毎日新聞論説委員の野口武則記者による連載「宮内官僚 森林太郎」はともに好評で、書籍化の話が進んでいます。また、永田小絵さん翻訳による連載「中国史の舞台裏 葛兆光 歴史随筆集」も日々の政治外交を離れ、奥行きのある中国文化を学べる恰好の読み物になっています。今年の後半以降は、次の連載も検討することになっています。

(3) 「アジア・太平洋賞」の活性化

アジア・太平洋賞は、SOMPO ケア、日本生命、久永アンドカンパニー、渋沢栄一記念財団、カルチュア・コンビニエンス・クラブ、三輝工業（大阪）の協賛、MRAハウスの助成をいただき、第35回を無事に開催することができました。2024年度は一部協賛社が変わる見通しですが、基本的に同規模の事業を目指します。2023年度からは石井正文・前インドネシア大使と古城佳子・青山学院大学教授を新たに選考委員に迎えました。今後、次代の賞の在り方を探りながら、中堅の研究者、実践者を対象にした本賞らしい秀作の選出を目指します。

(4) アジア調査会設立60年記念事業

1964（昭和39）年9月8日に、吉田茂を初代会長に迎え、任意団体として出発したアジア調査会は今年60年の節目を迎えます。アジア調査会が先鞭を付けた中国をはじめとするアジア地域の調査研究はますます重要になっており、節目の記念講演会などを検討しています。その相談をしているさなかに五百旗頭真会長が逝去されました。次期会長の就任を待ち、詳細を詰めて開催したいと考えています。

以上